

農業技術 プリズム

近年、温暖化の影響で収穫前の春季の気温が上昇しており、露地ビワでは紫斑症など障害果の発生が増加しています。そのため、遮光率が高い内黒袋を使用している事例が見受けられます。そこで「なつたより」で、その抑制効果と果実品質について検討しました。なお、内黒袋における袋内温度は、対照のもぎ二重T36より2.7度低く、遮光率は99.7%でした。

そのため、内黒袋は紫斑症が発生しやすい早花果、若木、樹勢の強い木や徒長した着房枝に、優先的に使用するのが良いでしょう。なお、紫

ビワ「なつたより」内黒袋使用

紫斑症は抑制するが他の品質低下に注意

斑症は着色初期の強い日射による高温条件下で発生が助長されるので、袋かけの時期が遅れないようにしてください。さらに、誘引で低樹高へ

内黒袋を使用したビワ「なつたより」の障害果の発生度と品質

袋の種類	発生度			果皮色	糖度 (Brix%)
	紫斑症	裂果	そばかす症		
内黒袋 (白黒T35)	0.3	32.4	24.2	6.4	12.8
対照 (もぎ二重T36)	13.5	16.2	12.7	7.4	13.3

※発生度：数値が大きいほど障害が多い
※果皮色：数値が大きいほど赤みが強い

樹形改造して樹勢を落ち着かせるとともに、作業性の改善を図ることが重要です。
(県農林技術開発センター 果樹・茶研究部門ビワ・落葉果樹研究室専門研究員 古賀 敬一)